

## 令和5年度第1回 多摩市男女平等参画推進審議会 要点録

開催日時：令和5年6月6日（火）15：00～16：30

場 所：TAMA 女性センター 活動交流室

出席委員：中島康予委員、木本喜美子委員、神子島健委員、鈴木景子委員、ジョギョウバイ委員、本間まり子委員、真野文恵委員（オンライン参加）（会長・副会長以下50音順）

欠席委員：神山直子委員

事務局：古谷部長、西村課長、齋郷係長、米山

傍聴者：2名

（発言者凡例：◎会長、○委員、◇事務局）

### 次 第

#### 1 開会

◇TAMA 女性センター長より、着任の挨拶をした。

#### 2 議題

##### （1）[報告] 令和4年度第6回多摩市男女平等参画推進審議会要点録の確認について

◇修正ある場合は、6月12日までにメールでお知らせいただきたい。

##### （2）[協議] 令和4年度 第4次多摩市女と男がともに生きる行動計画推進状況外部評価について

###### ア 令和4年度 第4次多摩市女と男がともに生きる行動計画推進状況行政内部評価について

◇ [資料2～6の説明]

◎今の事務局の説明について、質問や意見があれば発言いただきたい。

○全体的に平均値が上がっているのは良い傾向であるが、昨年度は、コロナの影響が少し緩和されたためなのかなど、そういった感触などお考えあれば伺いたい。

◇利用者数、講座数などを評価項目としている催し物は、コロナの状況に応じたやり方を工夫できるようになったことで、評価が好転していると考えている。

○子育て支援拠点のオーリーブを利用している。日曜日にオープンしているので助かる。多様な保育サービスについて、知っている方も少ないかもしれないので、保育園にチラシを置いて周知すると、多くの人利用しやすくなるのではないかと思う。

◇コロナの影響から、利用人数が回復しているが、まだ保育サービスは対策を練っている段階であり、事業自体を展開できていないところもあった。昨年度は、そういったコロナの状況に応じながら取組を進めたところと、慎重に行わなければならないというのが混在している年度であった。

○資料5のP7の(3)「被害者の安全確保に向けた体制の充実」の事業番号64「配偶者暴力相談支援センター機能の検討」にある、「検討が進まなかったこと」をD評

価としているが、その根拠を伺いたい。

- ◇いつまでにどこまでをとという目標設定が、女性センターの中で検討できていなかった。今年度中には、できる、できないを含めて検討に着手する。困難女性に関する新法との関係もあるので女性センターの機能をどうするのかを含めて、期限を決めたいので、検討に着手する。
- 「検討します」の目標に対し、「できませんでした」でD評価は悲しい。一步でも検討できていればと思う。困難女性に関係するものとして検討に時間をおきたいのであれば、D評価でなくてもいいと思う。
- ◇中間見直しまで2年であるため、新法に向けた前向きな着手が必要と考えており、今年度は着手したい。今回は、反省点も踏まえて、Dとしている。
- 資料4の事業番号90「TAMA女性センターの認知度向上に向けた取組」について、D評価とあるが、認知度を上げる取り組みはしなかったのか。また、評価が上がらなかった理由は、分析されたのか。
- ◇実績値は世論調査を基に算出しており、世論調査は2年に一度の実施である。毎年令和3年度も4年度も取組を行ってはいしたが、今後もTwitterやLineと連携して次回の世論調査を見据えた取り組みをしていく。
- SNSなどの反応はあるか。
- ◇具体的には、5つの相談窓口や、若年層のLGBTの居場所事業の開催についても、TwitterやLineで発信している。相談事業に関して、TwitterやLineで見たという反応はあまり多くないが、目にする機会・知る機会が増えることで、認知度向上につながっていると考える。令和4年10月20日号の広報でDV啓発を掲載したものが東京都のコンクールで入賞した。その記事を見て、DVに係る相談がきている。そのため、希望的な観測はできると考える。
- ◎事業番号19「いのち支える自殺対策における取組」について、評価がBからCへ落ちている。自殺された方の属性のデータはあるか。
- ◇令和3年度の実績を令和4年度の評価結果として出している。多摩市の自殺は少し女性が増えている傾向がある。昨年度末に、「働く女性のメンタルヘルスケアの講座」を福祉総務課と共催し対策を講じている。
- ◎若年層の自殺が増えているのが気になった。また、事業番号13「ひとり親家庭の生活安定のための自立支援」について、評価下がった。指標の立て方がよくないと考える。
- ◇実績値が令和3年度よりも、かなり減っているという風に見える。転出した世帯の利用頻度が高く、転入した世帯が短期の利用だったということで、派遣の希望数が大きく減ったのが、今回の評価の低下に繋がっている。派遣の需要には応えられているのだが、派遣の依頼自体の総数が減ったためD評価となった。
- ◎希望数が減った点について、希望が抑制されるような働きかけをした場合に評価が下がるのはわかるが、そうではなく、希望に対して満たしているのなら、評価を下げるまでではない。指標に即して評価をつけるのがルールだと思う。
- ◇次の見直しに向けて、指標を変えていくのかなどを考えたい。例えば、ホームヘルプサービスの希望に対しての充足率にするとか。今は、計画途中のため、次の見直

しへの課題提起としてとらえたい。

○指標は誰がどのように立てたのか。

◇令和2年度に計画を策定する際に、令和元年の市民意識調査（世論調査）を活用したり、当時の審議会でご意見をいただいたりして、作成したものである。

○事業番号33「多様な保育サービスの提供」と34「放課後の子どもの居場所づくりの推進」について、学童クラブの待機児童数が増えている。全国的に見ても増えており、保育所の次は学童クラブが課題だと思う。地理的な制約があるものの、これからも利用者が伸びてくる。今後の展開で、「施設整備によらない」と書いてあるが、この対策でたりるのか。

◇子ども青少年部の事業に係る庁内会議で出た話であるが、学童クラブが定員を増やしているが、追い付いていない一方で、子どもが放課後過ごす場所として、学童クラブ、放課後子ども教室や児童館がある。放課後子ども教室の担い手は、高齢化しており見守りする人が少ないのが課題であり、その点を改善していけば、学童クラブのニーズが放課後子ども教室に移っていくと考えている。現在、放課後子ども教室の運営を委託できるかについて検討しており、今年度は、2か所の地域で試行実施中であり、今後方向性を定めていく。

○試行の委託先は継続するのか。

○委託先は社会福祉法人と聞いており、継続すると聞いている。

◎外部評価に向けて、委員会や審議会のジェンダーバランス、2つ目に、困難女性の対応と女性センターの機能明確化が大事である。具体的にはターゲットをはっきりさせて、機能を明確化することが大切である。自殺女性が増えているということもあり、困難女性への対応は大きな柱となってくる。また、現在すでに着手されている、事業番号33「多様な保育サービスの提供」と34「放課後の子どもの居場所づくりの推進」について、後押しできるような評価としていき、外部評価をまとめていく形でよいか。

○良いと思う。女性の自殺について、内閣府の全国調査で女性の自殺者が増えているというデータを見た。コロナの直後に多摩市の状況について聞いたときは、そのようなことはないという回答があったが、全国的なトレンドと多摩市の傾向は違うのかなと思った記憶がある。しかし、近年そういう傾向が出てきたということは、どうということだろうと思う。様々な立地条件のある中での調査であり、都心に通うOLの方もいれば、主婦の方もあり、多摩市ではコロナ直後からの時差もある中で生じた現象であるということは考えたいと思った。

◇過去のデータの推移や、多摩市の特徴が出てこないか等所管課に確認して共有したい。それを評価に反映していただきたい。

○指標が適切でない部分があり、外部評価のところでは、自己反省を踏まえて違う指標を立てた方がいい等を書いていきたい。

○補足しておくが、一つひとつの指標を委員で立てた訳ではなくて、事務局案に対し、この指標は不適切であるから直してほしいといったやり方をしたため、提言にしてもいいと思う。

◎まとめると、1つ目に委員会や審議会の女性委員の比率、2つ目に女性センターの

- 役割と機能の明確化と、困難女性の対応との結び付け。この点は、女性自殺者のデータを確認し、可能であれば加えることとしたい。3つ目に学童クラブの子どもの居場所づくりの対応、そして、全体を通して指標の見直しを盛り込むこととしたい。
- ◇今日の審議を踏まえて、事務局でたたき案を作成し、次回の委員会の前に、送付する。たたき案作成時に、疑問がある場合などは、メール等でご意見を伺いたい。
  - ◎メーリングリストを作してほしい。また、一人ひとりのご了解を取って、ccで共有したい。この委員会の場を軽んじるということではないが、開催回数と時間は限られているため、効率的に進められればよいと考えている。
  - ◇メーリングリストについては、担当の所管課に確認する。また、委員同士の共有について差し支えなければ、ccに入れて、共有できる形にしていただければよいと思う。共有に支障があれば、個別に対応する。欠席の神山委員には確認して、共有する。
  - 以前は、そういった形ではやってこなかった。普段来るメールが多くて処理できないと思う。そのため、本当に必要な時だけにしていただきたい。基本はこの場で議論するものなので、できるだけ避けていただきたい。
  - ◎議題の4にある、各課ヒアリングについて、前回、消化不良で終わった部分があるので、時間配分を見直したい。
  - コロナ禍を通じて、実際に会っての議論とメールでの議論は質が違うと感じた。原則は、対面での議論としていただきたい。
  - メール内での審議というよりは、情報共有として捉えていただきたい。
  - ◎事務局からある程度まとめられたもので共有されるが、途中の段階で、共有していただき整理の時間をいただけると助かる。

### (3) [報告]「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」への対応と課題について

- ◇ [資料7・8の説明]
- ◎今の事務局の説明について、質問や意見があれば発言いただきたい。
- 民間団体との協働による支援について、これから多摩市でどんな団体があるのかの把握を進めると思うが、市内だけでなく、周辺地域も考えてはどうか。DV被害者など、市内から離れたところの情報を得たいとも思うので、市内でこだわらなくてもいいのではと思う。
- ◎大まかな構成についてあるか。
- 最終的に市がどうしたいのかというところではあるが、中間見直しで盛り込みたいならそれでいいと思う。困難な問題を抱える女性について、多摩市内の課題をはっきりさせて、具体的に見据えたうえで改善できるような計画をつくってほしい。
- 支援調整会議の構成員の守秘義務について、既存の会議体のなかよりも、単独の会議体のほうがセンシティブな内容なので、良いかもと思っている。期待と不安を感じる。
- 支援調整会議は、今回は女性バージョンとなると思うが、既存な会議体を使いながらも、女性に特化したような仕組みができるといい。

◇既存の仕組みでも対応しているところを示しつつ、最終的には計画に落とし込みたい。改定の際にも、その内容を盛り込んでいきたいと事務局は考えている。

#### (4) [協議] 提言に関する各課ヒアリングについて

◇ [資料9の説明]

◎今の事務局の説明について、質問や意見があれば発言いただきたい。

○女性の自殺が増えている。現場で活動する婦人相談員が感じたことを生の声で聴けると有意義なのではと思う。また、困難を抱えて生きている女性の方について、具体的な事案があれば聞きたい。

◎7月3日の委員会のなかで、可能であれば、婦人相談員にオンラインを通じて参加いただきたい。

◇3日の時間配分としては、外部評価1時間、ヒアリング1時間を想定している。婦人相談員に、オンラインで音声のみで参加していただくことを調整する。

○婦人相談員への質問は、自殺問題に限らない方がよい。様々な深刻な事例を知りたい。

◎ヒアリング項目は、事前通告するか、もしくは当日に、課題や現状を自由にお話しいただくか。

◇事前に、ヒアリング項目をいくつか出していただいた方がよい。

○コロナ前とコロナ後の相談の変化を聞きたい。また、年齢層や立場の違いの中での近年の悩みの特徴があれば聞きたい。

○社会的な性別格差から感じる困難についても聞きたい。

○ヒアリング項目を事前に通告することは必須だと思う。解決策や提言を作る目的にむけ、質問を考えてしたほうが効果的である。

◇時間配分については、ヒアリングを1時間と割り振る。議事録の公開や非公開などは婦人相談員に確認する。

また、8月に高齢支援課と健康推進課と行う方向でヒアリングを行う方向で、予定を押さえておくようにする。委員の皆様には、どのあたりを聞いていくかイメージを持っていただきたい。

### 3 今後の日程について

◇第2回推進審議会の日程を確認した。

### 4 その他

特になし

### 5 閉会